特集・台湾

日本統治時代に大型ダムを建設

八田技師の業績に学べ

研究第一人者 古川氏が講演 「歴史理解し、国際人に」

日本統治時代の台湾で農業かんがい用の烏山頭ダム（台南市）の建設に尽くし、台湾の人々から慕われた日本人技師、八田與一氏（はった・よいち）。日本での知名度は低いが、台湾ではその功績が語り継がれている。今年5月、台湾当局がダムのほとりに記念公園を整備したことで、日本からの観光、教育旅行の素材として注目度が上がっている。東京都内のホテルでこのほど開かれた全国修学旅行研究協会主催のセミナーで、八田研究の第一人者として知られる古川勝三氏が講演した。古川氏の講演からその業績を改めて紹介し、旅行テーマへの活用のヒントにしたい。

台湾への修学旅行 注目の新テーマに

烏山頭ダムのほとりにある八田技師の銅像

■八田　與一（はった・よいち）

1886（明治19）年、石川県河北郡今町村（現在の金沢市）に生まれる。東京帝大工科大土木科を卒業後、24歳で日本統治時代の台湾に渡り、台湾総督府の技師として台湾各地の水利事業の設計、建設に従事した。1920（大正９）年からは台南郊外で烏山頭ダムの建設に着手し、1930年（昭和５）年に完成させた。太平洋戦争中の1942（昭和17）年、陸軍に徴用され船でフィリピンに向かう途中、米潜水艦の攻撃を受け、56歳で死去。その死を悼む嘉南の農民たちにより八田氏の墓が建てられ、命日の５月８日は墓前祭が毎年開かれている。

講師を務めた古川氏は、1944年愛媛県宇和島市生まれ。愛媛大学を卒業後に教職の道に進み、松山市立高浜中学校長などを務めた。80年に文部省の海外派遣教師で台湾・高雄の日本人学校に勤務した際、八田技師の業績を知り、独自に調査した。その成果を「台湾を愛した日本人」として自費出版し、91年に土木学会著作賞を受賞した。今回のセミナーでは、八田技師の生涯、ダム建設の詳細などについて約1時間半にわたって講演した。

■大型事業の推進

八田技師が建設を指揮した烏山頭ダムは当時東洋一の規模で、堰堤長が1273㍍、かんがい面積は香川県と同規模の15万㌶に及ぶ。世界的に事例の少ないセミハイドロリックフィル工法を採用。総予算は現在の約5000億円に相当し、当時、日本本土に数台しかなかった高価な建設機械を欧米から大量に買い付けて工事に投入した。

八田技師は、1920年のダム着工時には34歳という若さ。なぜ独創的で壮大な建設計画を立案でき、完成にこぎつけることができたのか。古川氏はその背景に、土木を学んだ東京帝大や赴任した台湾総督府で出会った多くの人々の影響があると指摘する。

八田技師は土木を学んだ東京帝大で、「港湾の父」と言われる教授、広井勇氏（高知県佐川町出身）の薫陶を受けた。広井氏は、北海道の小樽港の築港を指揮した業績などで知られる。また、大学の先輩には、単身渡米してパナマ運河の建設に参加した青山士氏（静岡県磐田市出身）がいた。

八田研究の第一人者、古川勝三氏（10月・東京のセミナー）

台湾総督府に赴任後は、台湾の上下水道整備を推し進めた浜野弥四郎氏（千葉県佐倉市出身）に接した。八田技師を信頼し、烏山頭ダムの計画を後押しした上官には、台湾総督府の明石元二郎総督、下村宏民政長官らがいた。

「帝大時代には〝大風呂敷〟とあだ名を付けられた八田氏だが、優れた師や先輩の生き方に影響を受け、台湾という新天地に目を向けた。ダム建設に能力を発揮し、巨大な工事を成功させることができたのは、自分を信頼してくれる上司に恵まれたからだ」。

■語り継がれる功績

八田技師は烏山頭ダムの建設にあたり、工事従事者の生活環境に配慮し、宿舎68戸、病院、小学校などの施設を現地に整備した。人種や民族への差別意識なく人々に接し人望があったと言われている。工事中の事故の殉職者を慰霊する碑には、日本人、台湾人の名を分け隔てなく年代順に刻ませたという。

1930年、約10年の歳月をかけて烏山頭ダムは完成した。かんがい面積が広大なため、通水式で全水路に水が行き渡るまで3日間かかったと伝えられる。かんがい設備の稼働で農業生産は向上し、一帯の農民60万人の生活を豊かにした。

ダムの完成後には八田技師の銅像が建立された。銅像は威厳を強調した立像などではなく、地面に腰をおろして建設現場を眺める姿になったという。銅像は大戦末期の金属供出令で運び出されたのを関係者が買い戻したり、日本人の銅像の設置が難しい戦後の一時期には関係者が倉庫に密かに保管したりするなどして現在に至る。

地元の人々の八田技師への思いは強く、1942年の死去後、命日の5月8日には現地で法要が営まれている。命日の法要は子や孫の世代に受け継がれ、現在に至るまで毎年続けられている。台湾では、八田技師の業績が学校の教科書で紹介されるなど、広く知られている。

「八田技師は、干ばつ、洪水、塩害に苦しむ嘉南平原の農民の姿を目の当たりにし、ダムの建設計画を立案した。恩人として尊敬されるのは、ダム建設の考え方の中心に、常に農民の姿があったからだ。そして、建設工事にかかわった台湾の人々、ダムの恩恵を受けた台湾の人々が、自身の喜ではないか。八田技師の生き方を教えることは、生き方を学ばせてほしい」と訴える。

若者が八田技師の生涯から学び、身に付けてほしい点として、①損得中心の価値観ではなく、善悪で判断する価値観②国際人としての正しい自国の文化や歴史の理解③自己選択、自己決定、自己責任④自国に誇りを持ち、公に奉仕する精神――を挙げた。

また、中国の「詩経」にある「飲水思源」（水を飲む時には井戸を掘った人々への感謝の気持ちを持ちなさい）という言葉を引用し、「八田技師の業績を忘れなかった台湾の人々は、まさに『飲水思源』の言葉の通り。日本の若者に感謝の気持ちを学んでもらいたい」と語った。

■烏山頭ダム

台湾南部の台南市官田区にある農業かんがい用のダム。1930年完成当時、東洋一の規模を誇ったダムで、堰堤長が1273㍍、貯水量が１億5000万㌧。給排水路は１万6000㌔、かんがい面積は香川県と同規模の15万㌶に達する。干ばつなどで苦しんだ地域を穀倉地帯に変えた。ダムには、コンクリートをほとんど使わずに、粘土、砂、小石で建設するセミハイドロリックフィル工法が採用された。土砂が堆積しにくく、現在も稼働している。

■八田與一記念公園

烏山頭ダムのほとりに今年５月にオープンした。台湾当局が整備し、八田氏や家族が暮らした宿舎など日本家屋４棟を改修、復元したほか、各種資料の展示やドキュメンタリーフィルムを放映する記念館がある。八田氏の命日、５月８日には完成式典が開かれ、台湾の馬英九総統、頼瑟珍観光局長が出席したほか、日本から八田氏の子孫や国会議員、旅行会社の関係者などが参加した。

台湾ランタンフェスティバル2012

彰化県鹿港で2月6日から

元宵節の大型イベント、各地でも関連行事

幻想的な台湾ランタンフェスティバル

2012年の台湾ランタンフェスティバルは2月6日、台湾中部の古都、彰化県鹿港（ろっこう）で開催される。2月19日までの14日間。鹿港体育場とその周辺エリア22㌶が会場。鹿港の中心部や古墳保存区、各寺廟などでも関連行事が展開される。日本からのランタンフェスティバル観賞ツアーも旅行会社各社が販売している。

台湾では旧正月（春節）が明けて初めて迎える満月（旧暦1月15日）を祝う風習を「元宵節」と呼び、各地の廟や広場では色鮮やかなランタンを飾る祭りが催される。

最も華やかで大規模なのが台湾観光局主導の台湾ランタンフェスティバル。今年2月の苗栗県の開催では、期間中の来場者数が800万人に上った。台湾各地で持ち回り開催され、来年で22回目を迎える。

会場には干支にちなんだ大型のメーンランタンが設置され、新年の平穏や繁栄を祈願。趣向をこらした各種のランタンが展示される彰化県鹿港の街は、清朝時代には河川貿易が盛んで港町として繁栄した。台南の安平、台北の萬華と並んで3大港町と言われたほど。貿易港としての役割は別の地に移ったが、現在は郷愁を感じる古都として内外の旅行者の人気を集めている。

歴史ある鹿港の街には、国家指定の古跡である龍山寺（1級）や天后宮（3級）をはじめ多数の廟が点在。軽食店や菓子屋、伝統工芸店など懐かしい商店が建ち並ぶ古い町並み「老街」も情緒にあふれている。

伝統提灯の制作でも長い歴史があり、伝統提灯は鹿港の代名詞となっている。街には工房が多く、店先には多種多様の提灯が展示されている。また、線香づくりもこの街の名物となっている。

古跡や建造物、老街の散策、伝統文化や郷土料理の体験など、ノスタルジックな雰囲気を満喫できるのが鹿港の魅力となっている。

史跡、老街、伝統工芸――郷愁ただよう古都、鹿港

鹿港民俗文物館（観光月刊「台湾」提供）

来年2月に台湾ランタンフェスティバルが開かれる彰化県鹿港の街は、清朝時代には河川貿易が盛んで港町として繁栄した。台南の安平、台北の萬華と並んで3大港町と言われたほど。貿易港としての役割は別の地に移ったが、現在は郷愁を感じる古都として内外の旅行者の人気を集めている。

歴史ある鹿港の街には、国家指定の古跡である龍山寺（1級）や天后宮（3級）をはじめ多数の廟が点在。軽食店や菓子屋、伝統工芸店など懐かしい商店が建ち並ぶ古い町並み「老街」も情緒にあふれている。

伝統提灯の制作でも長い歴史があり、伝統提灯は鹿港の代名詞となっている。街には工房が多く、店先には多種多様の提灯が展示されている。また、線香づくりもこの街の名物となっている。

古跡や建造物、老街の散策、伝統文化や郷土料理の体験など、ノスタルジックな雰囲気を満喫できるのが鹿港の魅力となっている。

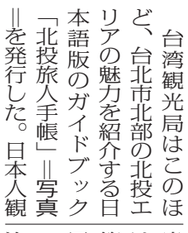
バル以外にも、元宵節の2月6日を中心に、台北区爆竹祭り、高雄ランタンフェスティバル芸術祭（高雄市内）など、各地でさまざまなイベントが開催される。

台南市塩水広場など）、台南ランタンフェスティバル（台北市政府前、国父紀念館広場など）、平渓天燈（新北市平渓・十份天燈）にも灯りが点され、幻想的な雰囲気がただよう。特産品の即売エリアやグルメの屋台エリアなども開設される。

台湾観光局が主導する台湾ランタンフェスティバル以外にも、元宵節の2月6日を中心に、台北ランタンフェスティバル（台北市政府前、国父紀念館広場など）、台南市塩水区爆竹祭り、高雄ランタンフェスティバル芸術祭（高雄市内）など、各地でさまざまなイベントが開催される。

北投エリアの魅力紹介

台湾観光局「北投旅人手帳」発行



台湾観光局はこのほど、台北市北部の北投エリアの魅力を紹介する日本語版のガイドブック「北投旅人手帳」＝写真＝を発行した。日本人観光客に人気の北投温泉をはじめ、歴史や自然、建築、グルメなどをコラム風に紹介している。

北投温泉では、日本統治時代に利用が始まった歴史、湯煙が一面に立ち上る地熱谷、「北投公共浴場」を前身とする北投温泉博物館、現存する最古の庶民的浴場で今も利用されている「瀧乃湯」などを取り上げている。

地元の暮らしに関しても紹介。生活感あふれる北投市場、日本統治時代に建立され、地元の人々に受け継がれた普済寺などを解説している。

北投旅人手帳の入手は、台湾観光協会東京事務所、大阪事務所まで。

日台で姉妹温泉 北投が交流促進

玉川、道後と

台北市の北投温泉は、日本の温泉地との交流を促進し、観光客の相互拡大を期待している。今年8月に秋田県仙北市の玉川温泉と、両温泉がアジアで数少ない「北投石」の産出地である縁で姉妹温泉を締結。今月には、愛媛県松山市の道後温泉と、台北市の空港が「松山空港」である縁などにちなみ、友好交流の関係を結んだ。

訪台日本人旅行者数 10月までの累計 過去最高を記録

台湾観光局の統計（暫定値）によると、今年10月の訪台日本人旅行者数は11万2450人で前年同月より23・7％増加した。3月に東日本大震災が発生し、一時は伸び率が鈍ったが、6月からは2ケタの伸び率を記録している。

訪台日本人旅行者数の1～10月の累計は、前年同期比18・6％増の103万5448人となり、同期間の累計として過去最高を記録した。観光局が掲げる年間誘致目標の125万人の達成も期待されている。

一方、台湾からの訪日旅行者数は10月が1・5％減の11万8433人。3、4月には半減したが、震災の影響から回復基調にある。1～10月累計では19・1％減の96万3598人となった。

台湾修学旅行でセミナー 全修協 古川氏が3都市で講演

東京会場のセミナー

八田技師をテーマにした台湾修学旅行セミナーが10月下旬～11月中旬、東京、大阪、名古屋の3カ所で開かれた。全国修学旅行研究協会（全修協）が主催、台湾観光協会が共催。台湾への修学旅行に関心を持つ学校の教諭などが参加した。開催には近畿日本ツーリスト（KNT）、ユナイテッドツアーズが協力した。

各会場では八田技師研究の第一人者、古川氏が「台湾を愛した日本人」の題名で講演した。古川氏は、旅行企画などへのアドバイス業務に関して、KNTグループのユナイテッドツアーズと顧問契約を結んでいる。

講演のほか、全修協の粟飯原幸男事務局長が台湾への修学旅行について2テーマを提案した。先の海外修学旅行の実施件数（速報値）は1022件で、新型インフルエンザの影響などを受けた09年度に比べて201件増加した。台湾を訪問先とする修学旅行は58件で09年度より6件増加した。

速報値ではあるが、海外修学旅行の10年度の実施件数は09年度に比べて増加した。しかし、08年度の1312件の水準には回復していない。

一方で台湾への10年度の修学旅行は、08年度の57件と比べても1件の増加となっており、堅調に推移している。

10年度の修学旅行 台湾は58件に増加 全修協の速報値

全修協の調査によると、2010年度の高校の海外修学旅行の実施件

2012年祝日情報

1月1日　開国記念日
1月23日　（旧暦１月１日）春節＝旧正月
＊　大晦日から旧暦１月３日まで、および調整休暇などを含み正月休み。
2月28日　和平記念日
4月4日　児童節（こどもの日）
4月5日　清明節
6月23日　（旧暦５月５日）端午節
9月30日　中秋節（旧暦８月15日）
10月10日　国慶節（建国記念日）

情報更新：2011年11月現在

Taiwan
THE HEART OF ASIA

台湾観光局
http://jp.taiwan.net.tw

2010-2011 台日観光交流年
TAIWAN-JAPAN Tourism Exchange Year

台湾観光協会
東京事務所
〒105―0003
東京都港区西新橋１丁目５―８川手ビル３Ｆ
電話03・3501・3591　ＦＡＸ03・3501・3586

大阪事務所
〒530―0047
大阪府大阪市北区西天満４―14―３―６Ｆ
電話06・6316・7491　ＦＡＸ06・6316・7398

ウェルカムプレゼントキャンペーン実施中

台湾観光局では、台湾を旅行される皆さまに向けて“2011ウェルカムプレゼント”を実施しています。現在は台湾の空港で交換できる特産品引換券、または台湾各地の名物夜市９カ所で利用できる台湾夜市美食クーポン（消費券）をプレゼントしています。　※消費券は各地の指定夜市における協賛屋台各店でＮＴ＄100分が利用できる無料クーポンとなります。

さらに、必見の観光スポットである国立故宮博物院の無料入場券も合わせてプレゼント。入手ご希望の方は、ご出発前に台湾観光協会東京事務所または大阪事務所にご請求ください。

◇キャンペーンの詳細は、台湾観光協会http://www.go-taiwan.netまで